

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社 地域計画連合

②事業者情報

名称：	上尾市立原市南保育所	種別：	保育所
代表者氏名：	熊坂恵子	定員(利用人数)：	70 名
所在地：	〒 362-0021 埼玉県上尾市原市4166	TEL	048-722-3808

③評価実施期間

平成27年 6月 1日(契約日)～平成28年 2月29日(評価結果確定日)

④総評

<p>◇特に評価の高い点</p> <p>○一人ひとりの気持ちを大切にし、子どもに寄り添った保育を展開している 個別の保育計画が作成され、個々の子どもの姿に沿ったきめ細かいかわりや支援が行われている。人権保育推進保育所として人権保育に取り組み、歌集会で手話歌を特別なものではなくコミュニケーションの一つとしてみんなで歌ったり、貸し出し絵本や保護者の希望で家庭訪問を行い子どもの育ちを伝えたり子育てを支援できるようにしている。保育者は常に子どもの興味や関心がどこにあり、発達に必要なものは何かを考え、手作りおもちゃを作ったり、保育室の環境を考えるなど、子どもの発想や育ちなどを大事にし、声や心、気持ちを大切に子どもに寄り添いながら、遊びや保育を展開できるように様々な工夫をしている。</p> <p>○職員の手作りおもちゃが多く温かみのある保育室の設定がある 年齢に応じた手作りのおもちゃが用意されている。綿の太ロープと水道ホースを用いて作った「紐とおし」や、ペットボトルの蓋とビニールの蓋つき容器で作った「ぽとんおとし」で子どもたちが集中して遊んでいる姿があり、気に入って遊んでいる様子がうかがえた。段ボールを用いてトロールの的当て、ボール入れ、輪投げのゲーム等も作っており、作成物を使って遊びの広場と称し異年齢児での保育が展開されていた。また、それぞれの保育室内に、障子紙をパステル調の染め紙にして貼ったおもちゃ箱を作成して和紙の風合いとその色調で保育室が温かみのある雰囲気となっている。</p> <p>○経営層のリーダーシップが活かされ、保育所全体で子どもの成長に取り組み、緩やかな連携につながっている 朝礼や職員会議、日常保育における職員間でのコミュニケーションが適宜行われ、所長・副所長等のリーダーシップが発揮された保育活動が展開されており、子どもたちの様子からも活気と積極性がうかがえる。職員一人ひとりの話や考えを良く聞き、意見や提案などを尊重した、職階に拘ることなく意見交換ができる雰囲気が形成され、緩やかな連携につながっており、各クラスの取り組みなどへの助言や気づきについて話し合いができる場として有効に機能している。職員全体の人柄が活かされ、保育活動に意欲を持って取り組むことができ、保育に対する前向きな取り組みとなり、子どもたちの楽しいやうれしいなどに活かされ、思い出に残る保育の実践となっている。</p> <p>○保育所周辺の地域資源を活かして、子どもたちの交流を広げ、社会性を育む取り組みとなっている 人形劇、夏まつりや運動会、公開保育などの保育所での行事には、地域居住の高齢者や子育て家庭者などが参加して子どもたちとの交流を楽しんでおり、ポスターの掲示やお知らせを園周辺家庭に配布するなどのより、大勢の方々が来所し地域の子育て拠点としての機能を果たしている。また、公開保育の際には学校の先生、民生委員、ファミリーサポートセンターの職員などの参加もあり、地域の子育て情報を把握する機会としても活かされている。さらに、隣接する集会所のサークルと子どもたちが交流したり、私立保育園へ訪問してジャガイモやサツマイモ掘りなどをするなど、地域の資源を十分に活かした取り組みが進められている。近隣の小学校との連携では、運動会や学校公開などへも参加して、子どもたちの交流範囲が広がり、社会性を育む活動となっている。</p>

◇特にコメントを要する点

○保育の取り組みをわかりやすく丁寧に伝える工夫も期待したい
 毎日の保育活動の様子は2歳児以下は連絡ノートにエピソードなどを記入して保護者に伝え、日報という形で各クラスの壁に掲示され周知している。日報の内容は全体的な子どもたちの様子が書かれており、利用者調査からももっと子どもの様子が知りたいという意見も窺える。子どもが保育活動にどのように関わっていたのかを想像できる説明や具体的なエピソードを記録するなど、子どもの活動の様子をわかりやすく伝える工夫などの検討も期待したい。

○子どもたち自らが主体性をもって遊ぶための更なる環境設定の工夫なども進められたい
 職員の手作りのおもちゃも多くきちんと整理整頓がされている。絵本の貸し出しも行っており背表紙に色別のカラーテープを貼り片付けがしやすいようにしている。反面、子どもが見たい絵本を選ぶ時に背表紙からはなかなか選びにくく、本棚の絵本の並べ方や見せ方についての工夫を期待したい。おもちゃは段ボックス内のおもちゃ箱や保育室の押し入れ下にある空間のおもちゃ箱に保管されていたり、子どもが見てわかりやすいように箱に絵を付けて手の届くところに収納したり工夫している。また、紙やペンなどを用意して自由に遊べる環境にも配慮している。子どもの年齢に応じた自主性・主体性とは何かを職員間で共有し、これを使って遊びたいと思った時に子ども自らの意志で遊びやおもちゃの選択ができるように、更なる見せる収納の工夫やコーナー遊びに誘う環境設定などへの検討・配慮も合わせて進められたい。

○子どもたちの安心・安全への取り組みを更に進め、保護者との意識共有にも活かされたい
 子どもたちの安心・安全に向けてチェックリストを用いた確認を行い、毎年ヒヤリハットマップを作成して職員会議で周知・共有し、保育活動の際の配慮に活かしている。ヒヤリハットマップをさらに視覚的に分かりやすくするなどの工夫をして、どこがどう危ないかを明確にしどのような配慮が必要かに気づきやすくするなどの対応を検討され、保護者にも周知して安全への配慮の意識を広げ、さらに子どもたちの安全を向上されたい。また、おさんぽマップを活かして散歩のルートを明示し、ルート沿いで注意すべき事項を追記して保護者向けに掲示して、子どもと歩く際にも活用できるものとする事で安全への意識啓発などにつながる気づきに活かされたい。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

保護者の方々にはお忙しい中アンケートの御協力をいただきありがとうございました。
 第三者評価を受け、多角的に保育所全般を見直し確認することができました。
 現状を踏まえ良いところを継続し、改善すべきところは園全体で共有し、質の向上につなげていきたいと思っております。
 保育環境を整え、職員の心配りや連携をとり、安心して安全な保育所になるよう、これからも一人ひとりを大切にする保育をしていきたいと思っております。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり